２月号　　令和６年１月３１日

京橋朝海幼稚園園だより

科学の芽

園　長　眞家 順子

四季が移り変わる時期も、昔とは違うことが増えました。暖冬といわれていますが、ようやく冷たい空気を感じられるようになりました。体の芯から冷える朝を迎えると、冬が来たことを実感し安心します。そして、教師は日々、最低気温が下がり、冬の事象の一つである氷ができる日を待っていました。

自然と関わる場として、園庭の他に、併設小学校屋上にあるビオトープを活用しています。ビオトープには、メダカやドジョウ、アメンボ、ダンゴムシ、バッタなどがいて、見たり触れたりすることを楽しんできました。気温が下がると予報があった朝、氷を探しに屋上に行きました。予報とは違って、気温は零度を下回らなかったため、氷はありませんでした。しかし、ビオトープの中に手を入れ、どれくらい長く手を水の中に入れているか試す子がいました。すると、水の中に手を入れる子が増え「冷たい」「冷たくない」と言いながら、「競争ね」と遊びが始まりました。寒くなると、トイレ後の手を洗わずに済まそうとする子を見かけます。あえて冷たさに向かって挑戦する遊びを楽しむ姿に、子どもたちが面白いと思うことは関わる環境が大きいと改めて思い、「冬は水が冷たいね」と教師も一緒に体感しました。

屋上に着いてから、終始ビオトープをのぞき込み、以前来たときにいたメダカを見つけようとする子がいました。しゃがみ込み、身じろぎもせず、ビオトープを凝視しています。「何しているの」と友達が近寄り、理由が分かると、足を地団駄させビオトープに震動を送りました。すると、メダカが出てきました。「やっぱり、いた！」「今(冬)は、隠れていたんだね。」とメダカの動きを、笑顔で眺めていました。

知っている知識を基に、推測していく力は、小学校の理科である、観察、実験につながる科学の芽です。メダカはここにいるという知識があるので、目的をもって観察しています。また、そのことを友達に伝えたことで、同じ推測をした友達が、メダカを見つけるために方法を考え、メダカがいることを証明しました。水が冷たい時には、メダカは隠れていることも予想しています。

子どもたちは、様々な場面で気付きや発見し、試したり学んだりしています。その際、友達や教師の存在が大きな影響を与えています。特に教師の意図的な関わりが、子どもたちの気付きや学びの支えになっていることを十分意識して、保育にありたいと思います。

＜今月の学年の目標＞

☆３歳児めだか組　・友達と一緒に遊ぶことを楽しむ中で、自分の思いを動きや言葉で表す。
　　・劇遊びの中で役になりきったり、学級のみんなと一緒に動いたりすることを楽しむ。

☆４歳児いるか組　・自分の思いを伝えたり、友達の話を聞いたりして一緒に遊ぶことを楽しむ。
　　・劇遊びをする中で、友達と一緒に表現したり、声を合わせたりすることを楽しむ。

☆５歳児かもめ組　・友達とよさを認め合いながら遊びや生活を進めていく中で、自分たちの成長を感じる。
　　・学級やグループの友達と力を合わせて劇に取り組み、やり遂げた達成感を味わう。